

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

大学名	京都大学
構想名称	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 －災害復興の経験を踏まえて－
相手大学等名 (国名)	チュラロンコン大学(タイ)、カセサート大学(タイ)、アジア工科大学(タイ)、バンドン工科大学(インドネシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)、マラヤ大学(マレーシア)

【構想の目的及び概要】

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、死者・行方不明者2万人以上、ピーク時の避難者数40万人という我国の歴史上未曾有の大規模自然災害となった。本震災での被災状況・復旧状況を踏まえ、震災に対してしなやかで回復性に富んだ弾力性のある国づくり、すなわち「強靱な国づくり」を目指すことが不可欠な課題であるとともに、そのコンセプトを災害復興の過程を通じて構築し世界に発信することは、地球規模での大規模災害が発生している中、日本が果たすべき重要な国際貢献であると位置づけられる。このような観点から、本構想では、日本と同様に今後大規模災害の発生が想定される ASEAN の大学と連携して中核拠点（世界展開コンソーシアム）を形成し、東日本大震災からの復興の過程を踏まえながら、強靱な国づくりを担う国際人を育成することを目的とする。この目的を達成するため、京都大学と ASEAN の連携大学の間で、単位相互認定を伴う短期留学による修士・博士課程の学生交流及び若手教員の相互派遣を主体とした協働教育プログラムを構築する。このプログラムの具体的な枠組みは、京都大学と ASEAN の連携大学の間で、減災/復旧/復興リーダー育成を目指す協働教育カリキュラムを開発するとともに、そのカリキュラムに沿った実践的な教育を実施し、開発した協働教育カリキュラムに即した単位相互認定を伴う教育プログラムをそれぞれの連携大学で実施するものである。

本構想では、本学の中期目標に示す「学部・研究科等の特性を活かした多言語教育を充実させるとともに、国際的な情報発信の強化」を図るため、4部局（工学研究科（社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻・都市環境工学専攻・安寧の都市ユニット）、経営管理教育部、地球環境学舎、防災研究所）と国際交流推進機構が連携して、工学的知識に医工連携（安寧の都市ユニット）及び文理融合（経営管理教育部）の知見を融合した協働教育プログラムの開発・実践的な教育を実施するとともに、本学と ASEAN 連携大学の学生が短期留学により国際的視野を涵養することを促進する。ASEAN 連携大学としては、従来からの交流実績を踏まえ、アジア工科大学、チュラロンコン大学、カセサート大学（以上タイ）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、バンドン工科大学（インドネシア）、マラヤ大学（マレーシア）の4ヶ国6大学を予定している。この4ヶ国では、日本と同様に甚大な地震・津波等の自然災害を経験していることに加え、近年気候変動に起因する考えられる風水害・地すべり・土石流被害の発生頻度も急増している。このような観点から、本構想の主題である強靱な国づくり及び災害復興にかかわるリーダー養成プログラムを構築することは、緊急かつ極めて重要な課題であると位置づけられる。なお、本コンソーシアムを形成する大学はいずれもユネスコの高教育情報ポータルサイト、世界大学ランキングサイト等に掲載されている、それぞれの国でトップレベルの大学であり、所属国における教育省・教育訓練省等から公式に学位授与に関する認可を受けている。また、いずれの大学も、世界各国の大学・高等教育研究機関との交流協定に準じた教育交流プログラムを実施しており、単位の相互認定及び教育の質の確保に関する制度は完備している。

このような背景を踏まえ、本構想を実施するに当たり、本コンソーシアムを形成する京都大学及び ASEAN 連携大学で運営委員会を発足させ、シラバス作成内容、単位認定手順（必要なる学習量・単位の換算方法等）、及び関連するFD活動に関して、京都大学と ASEAN 連携大学間での覚書を作成する。この覚書の作成に当たっては、世界展開コンソーシアム参画大学が現状で実施している単位認定及びFD活動の仕組みに、既に ASEAN 連携で導入されているダブルディグリー・デュアルディグリー制度、及び京都大学・アジア工科大・チュラロンコン大学が参画しているエラスムス・ムンドス構想で構築されつつある単位の相互認定制度も反映させたものとする。

以上に示したように、本構想は、本プログラムの展開を通じて国内外の協力機関との連携・拠点形成が進展するのみならず、「世界最高水準の研究を推進し、国際的に活躍し得るチャレンジングで独創的人材の養成」という京都大学全体の長期国際戦略の実現、ひいては国力の増進に資するものと言え、強靱な国づくりを担う人材の養成に十分貢献できるものと考えられる。

[構想の概念図]

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成
—災害復興の経験を踏まえて—

世界展開コンソーシアムの形成

地震・津波や自然災害被災ポテンシャルの高い国々との連携

ASEAN 諸国

- ・タイ: チュラロンコン大学
カセサート大学
アジア工科大学
- ・インドネシア: バンドン工科大学
- ・ベトナム: ベトナム国家大学
- ・マレーシア: マラヤ大学

学生交流



単位互換



教員派遣



復旧・復興プロセスの経験を
生かす本学の部局間連携

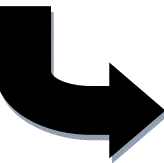
京都大学・減災/復旧/復興リーダー
育成教育コンソーシアム

- ・社会基盤工学専攻(工)
- ・都市社会工学専攻(工)
- ・都市環境工学専攻(工)
- ・経営管理研究部・教育部
- ・安寧の都市教育ユニット(医工)
- ・地球環境学堂・学舎
- ・防災研究所

協働教育プログラムの開発
(カリキュラム内容の例)

- ・地震動/地盤震動
- ・被害全容の即時把握
- ・津波
- ・地盤災害/気象災害
- ・土木構造物被害/復旧
- ・ライフライン被害/復旧
- ・ロジスティクス/瓦礫処理
- ・地震リスクマネジメント/BCP
- ・人的被害・健康被害
- ・避難/人間行動
- ・都市計画/景観設計
- ・復興のグランドデザイン
- ・制度設計/エネルギー政策
- ・防災教育/リスクコミュニケーション
- ・災害の総括
- ・自然災害(風水害・斜面災害)

育成人材の還流
ノウハウの還元



全学としての支援
国際交流推進機構

- 復興プロセスのノウハウ
- ・リスクマネジメント
 - ・耐震・耐津波設計
 - ・被災者対策
 - ・減災対策

- 東日本の災害復興
- ・災害復興支援
 - ・成果の実装
 - ・政策への反映
 - ・列島強靱化

平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	京都大学
タ イ プ	A-II
構 想 名	強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－
<p>〔評価コメント〕</p> <p>災害復興という、タイムリーで参加各国のニーズも想定できるテーマを扱ったプログラムであることや、現場重視の活動を展開しようとしている取組姿勢などは望ましい点である。京都大学の国際化に向けて、自身の課題を十分に分析した取組みであり、その展開にあたっても参画する各大学のそれぞれの強みを活かせる体制となっている点も評価できる。</p> <p>また、工学系の国際化プログラムについてはこれまでも実績があり、グローバルに競争力のある工学教育拠点の形成に期待ができる。学生の受け入れや送り出しの体制もできており、そうした学生支援の面でも安心感が持てる。</p> <p>なお、学生の派遣・受入期間が短く、構築するカリキュラムの数も少ないことが懸念される。海外での現場主義を実現するには十分とはいえず、特に日本人学生が海外で得るものが何かについても明確にする必要がある。また、日本人教員の派遣についても短期間で、FDとしての効果を考えるとその有効性には疑問が残る。</p> <p>学問の領域がかなり多岐にわたるが、最終的に育成される人材像、その人材の活躍の場などについて具体化が十分とはいえないので、さらなる検討が望まれる。</p>	